

1-42 栃木県の堆肥を活用した混合堆肥複合肥料「まどかちゃん」 (JA全農・株式会社JAグリーンとちぎ)

○ JA全農及び株式会社JAグリーンとちぎは、15kg袋と軽量で、作業の省力化にも繋がる栃木県内の家畜ふんを主な原料とし、堆肥を30%と米ぬかを10%使用したペレットタイプの混合堆肥複合肥料を製造。

■国内資源の種類

・県内の家畜ふん
(主に牛ふん)
・米ぬか

■肥料の種類・肥料名称

混合堆肥複合肥料
まどかちゃん

■取組の経緯・内容・成果(見込み)

取組の経緯

JA全農及び株式会社JAグリーンとちぎでは、畜産が盛んな栃木県の地域資源ともいうべき堆肥を有効活用することで、循環型農業、耕畜連携の一層の進展を図ることを目的に開発。

取組の内容

肥料メーカーの朝日アグリア協力のもと、県から産出する牛ふん堆肥を主に使用して製造している。ペレット状なので散布がしやすく、製造時に火力乾燥しているため、雑草種子や病原菌の心配がないことが特徴。

成果(見込み)

・無機質と有機質の配合成分バランスがよいため、土づくりの効果も期待でき、土壌を荒らしにくく、施肥の省力化が図れる。臭いも少ないので、家庭菜園等でも使用しやすい。
・令和5年度供給実績 88.35 t

■作物

園芸作物全般及び
米、麦、果樹など

■保証成分量(%)、特徴等

N	P	K	有機質	うち堆肥割合
10%	10%	10%	40%	(30%)

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

- ・地場の堆肥を使用する上で、畜産農家の堆肥舎から、肥料製造工場までの運送コスト低減が課題。
- ・肥料原料の国際価格が下落し、混合堆肥複合肥料より、肥料銘柄によっては化成肥料の方が製造コストが低い傾向にあり、肥料利用者に価格面でのメリットが伝わりづらい。
- ・原料とする堆肥に含まれる敷料等が肥料製造時のネックとなっており、原料の高品質化・周知徹底が課題。